



平成 28 年度
地域コーディネーター養成講座
ぎのわん地域づくり塾 2016
報告書

平成 29 年 1 月

目次

1. ぎのわん地域づくり塾概要	3
(1) ぎのわん地域づくり塾とは	
(2) プログラムの流れ (全7回)	
(3) 第1期塾生の概要	
【ヒトコト】 塾生の声	
(4) モデル地区：長田区の現況	
【ヒトコト】 櫻井常矢氏 (高崎経済大学 地域政策学部 教授) ぎのわん地域づくり塾アドバイザー	
2. ぎのわん地域づくり塾の講義内容	9
(1) 第1回公開講座：ひとを育む地域づくりを進めるために ―市民協働の扉をひらく―	
(2) 第2回地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市長田区の地域課題と実践～	
(3) 第3回チーム分け／話しあい／地域インタビューの準備	
(4) 第4回地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～	
(5) 第5回フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～	
(6) 第6回地域の課題解決の企画づくり ～ゼミ・中間発表～	
(7) 第7回課題解決のための企画発表 ～修了式～	
【企画発表に対する長田住民のコメント】	
【ヒトコト】 多和田眞光氏 (宜野湾市社会福祉協議会会長) 主催者	
3. 長田区の困りごとに応じた企画提案	18
(1) 志真志四丁目ローソン裏スージグラー美化推進計画	
―チームバックストリート・ボーイズ (クシヌスージヌニーセーター)―	
(2) 夜、子ども達だけで過ごしている世帯を何とかしたい!!! ―我如古チーム―	
(3) 長田区に買い物難民はいるのか?! ―買い物チーム―	
(4) 人暮らしの高齢者 (男性) ―認知症・1人暮らしチーム―	
(5) 近所づきあいが遠のく ―チーム近所づきあい―	
(6) 歩く社会資源の育成～高齢者の孤立・貧困～ ―チーム安田―	
(7) 長田小学校区スクールゾーンの交通危険度が高い ―チームあ・ん・ぜ・ん―	
【ヒトコト】 佐喜眞淳塾長 (宜野湾市長) 主催者	

4. 塾生アンケートまとめ	33
(1) アンケート概要	
(2) 各設問項目の結果	
【ヒトコト】 富濱宗俊氏（長田区自治会会長）ぎのわん地域づくり塾モデル地区	
5. 総括総括 ～第1期の評価と今後に向けて～	42

資料編

- 資料1 宜野湾地域づくり塾 2016 募集要項チラシ
- 資料2 宜野湾地域づくり塾 2016 公開講座チラシ
- 資料3 櫻井常矢氏（高崎経済大学教授）の講義資料（第1回講義資料）
- 資料4 富濱宗俊氏（長田区自治会会長）の発表資料（第2回講義資料）
- 資料5 話し合いの手法～ファシリテーション～（第4回講義資料）
- 資料6 塾生各チームの企画提案書
- 資料7 ニュースレター<vol.1～7>
- 資料8 塾生アンケート結果
- 資料9 新聞記事
- 資料10 市報ぎのわん 8月号（No653）特集記事
- 資料11 事務局ふりかえりミーティング議事録
- 資料12 配布資料

1. ぎのわん地域づくり塾概要

(1) ぎのわん地域づくり塾とは

これからの宜野湾市においては、様々な分野で「一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題」が増えてくると考えられる。そのため、地域住民と共に地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、複雑化した地域課題を解決する「協働による地域づくり」が求められている。

そのためには、地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくりだす地域コーディネーター（つなぎ役）の存在が重要となる。そこで、宜野湾市では、地域づくり活動を行い、支援するための理解や知識を持った、コーディネーターの力を磨き合う場として、「平成 28 年度地域コーディネーター養成講座 ぎのわん地域づくり塾 2016」（以下、「ぎのわん地域づくり塾」）を開催した。

【ぎのわん地域づくり塾の目的】

地域づくりのプロセスを大切にし、多様な資源をつなぎ合わせながら、地域課題の解決の動きをつくりだす「地域コーディネーター」の育成

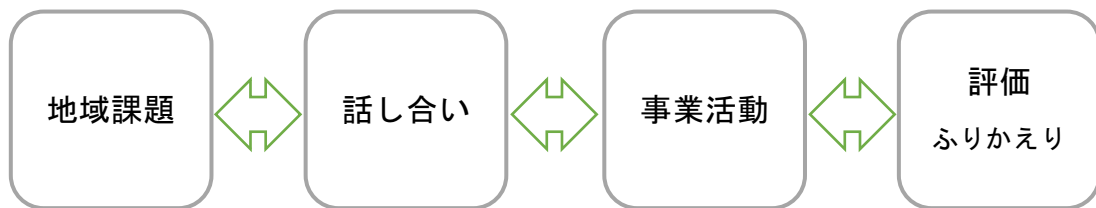


図 地域コーディネーターが住民と行う、地域づくりのプロセス

ぎのわん地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区（宜野湾市長田区）の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行う過程から、地域コーディネーターの育成を行った。

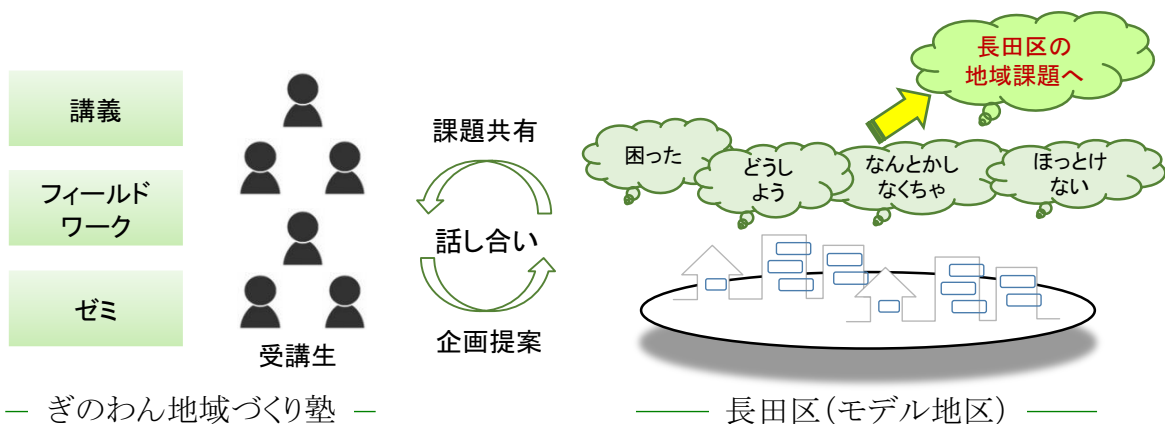


図 地域コーディネーター育成プロセス

(2) プログラムの流れ (全7回)

ぎのわん地域づくり塾は平成28年7月11日の公開講座から始まり、おおよそ2週間に1回の頻度で約3ヶ月間に渡って開催した。会場は、宜野湾市男女共同参画支援センターふくふくを拠点として開催し、長田区民の方へのインタビュー、最終企画発表は長田区公民館で行った。第2回から第7回までの講座には、平均して約31名が最後まで、継続的に受講した。

表 ぎのわん地域づくり塾のプログラム概要

講座	日程	講座名	会場	出席者
第1回	7/11 (月) 19:00-21:00	公開講座 ひとを育む地域づくりを進めるために ー市民協働の扉をひらくー (講師：高崎経済大学 櫻井常矢教授)	ふくふく*	73名
第2回	7/25 (月) 19:00-21:00	地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市長田区の地域課題と実践～ (講師：長田区自治会長 富濱宗俊氏)	ふくふく*	35名
第3回	8/8 (月) 19:00-21:00	チーム分け／話しあい／ 地域インタビューの準備	ふくふく*	32名
第4回	8/22 (月) 19:00-21:00	地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～	ふくふく*	27名
第5回	9/3 (土) 10:00-15:00	フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～	午前：長田区 公民館 午後：ふくふく*	27名 長田区民12名
第6回	9/17 (土) 10:00-15:00	地域の課題解決の企画づくり ～ゼミ・中間発表～	ふくふく*	27名
第7回	10/8 (土) 10:00-16:00	課題解決のための企画発表 ～修了式～	長田区公民館	34名 長田区民：11名 一般参加者：13名

*ふくふく：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

(3) 第1期塾生の概要

1) 塾生の所属

第1期塾生として、企画立案チームに所属した人数は36名（女性：20名、男性：16名）であり、当初の30名の定員を上回った。塾生の所属として最も多かったのは、宜野湾市社会福祉協議会であったが、行政、地域、企業、等の多様な立場からの参加を得た。

表 第1期塾生の所属

所属	人数(名)	割合(%)
市社会福祉協議会	10	28
市役所	7	19
自治会	5	14
市民	5	14
市民団体	3	8
企業	2	6
学生	2	6
P T A	1	3
市外	1	3
合計	36	100

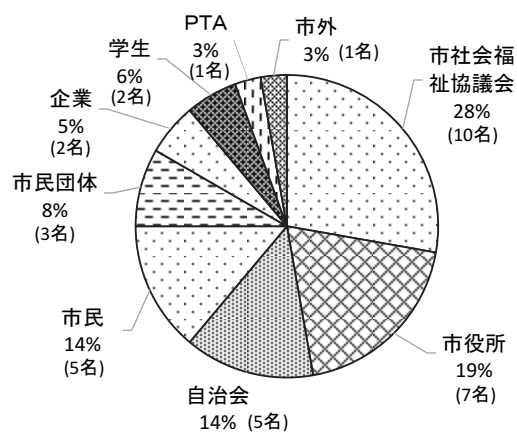


図 第1期塾生の所属

【ヒトコト】塾生の声**盛長 健さん（30代）宜野湾青年会議所**

様々な業種の方々から異なる視点があり、また同じような考えや意識のある方が多いことも新たな発見だった。問題解決のためのプロセスや手法を話しあうことにより、チームとしての意見がまとまっていく過程が勉強になった。問題を問題として捉えず、地域の資源と考えて、その地域の人々と一緒に楽しみながら活動に取り組んでいく。自らが楽しみ、ワクワク出来ることが大事だと思う。

新川 裕美さん（40代）介護士

人とつながりたい、地域づくりはとても大切と思っている人が、こんなにも多くいることがうれしかった。チームで取りくみ考えていくことで、チームワークや繋がりはいい仲間づくりになりました。講座日以外での集まりも多くなり、大変（時間を合わせたり等）でしたが、私自身の多くの学びの場となりました。

宮城 エリカさん（30代）建築設計デザイナー

地域づくりにおける多くの学び（協働、プロセス、つなぐ）以上に、年齢も職種も異なる方々と同じ目標にむかって活動する面白さと、自分の住んでいる地域に関われる楽しさがありました。地域コーディネーターとして何が必要で何が大切なのかを、実際に行動にうつしながら学ばさせていただいたので大変貴重な体験となり、自治会への興味も生まれました。

大城 周子さん（40代）大謝名団地自治会副会長

人が暮らしていると同時に、大なり小なり何らかの問題課題があり、それを解決できる糸口も地域に転がっている事に気づきました。「地域の皆さんにできることがあります！」その小さな力を結集すれば問題解決に繋がる事を学びました。小さな力を繋いで住みよい楽しい「ぎのわん市づくり」を地域で一緒にしていきたいです。

手登根 廣和さん（20代）宜野湾市社会福祉協議会

地域で、今まで隠れていた発見やニーズについて考えるきっかけになり、また、思っていた以上に困っていなかったという結果も大切な気づきだと思ったので良かったです。

比嘉 将人さん（20代）宜野湾市役所

地域の事を直接聞くことで、日頃の困りごとや、以前からの困り事など、多くの団体があるということに気づいた。そういった困り事が少しずつ減少するよう取り組んでいけたらと思います。

(4) モデル地区：長田区の現況

長田区は、昭和 38 年（1963 年）に長田区と志真志区（6 割）が合併して生まれた。その後、平成 11 年（1999 年）に長田小学校が開校し、宜野湾市内で最も世帯数、人口が多い地域となる。

琉球大学、沖縄国際大学が近接する影響もあり、19 才～65 才が人口の約 6 割を占め、人口に対して、比較的高齢者は少ない。自治会加入世帯は 975 世帯（加入率：23.0%）である。

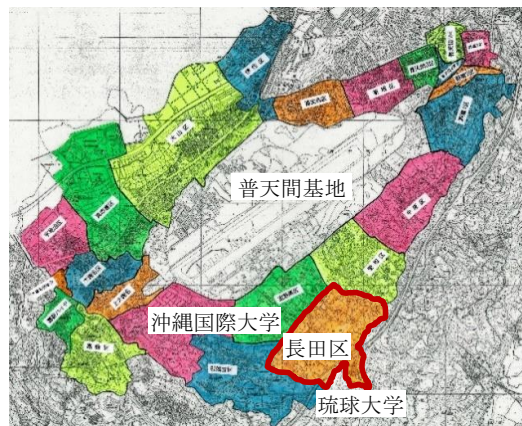


図 宜野湾市における長田区の位置

表 長田区と宜野湾市の人口遷移

	昭和 38 年 1963 年	平成 12 年 2000 年	平成 17 年 2005 年	平成 22 年 2010 年	平成 28 年 2016 年	
長田区	人口	1,073 名	7,632 名	8,479 名	9,134 名	9,540 名
	世帯数	176 世帯	3,321 世帯	3,785 世帯	4,082 世帯	4,234 世帯
	65 歳以上人口 (高齢化率)	-	838 名 (11%)	768 名 (9%)	1,011 名 (11%)	-
宜野湾市	人口	-	86,744 名	89,769 名	91,928 名	-
	世帯数	-	31,942 世帯	34,738 世帯	36,361 世帯	-
	65 歳以上人口 (高齢化率)	-	8,940 名 (10%)	11,589 名 (13%)	13,428 名 (15%)	-

【富濱自治会長がみる長田区の困りごと】

ぎのわん地域づくり塾では、長田区に寄り添った企画提案を行うことを目的とし、自治会長である富濱宗俊会長に、自治会に寄せられる相談ごとや、不安なことなど、現在の困りごとを挙げていただいた。その困りごとをまとめると、以下の 4 項目に分類される。

生活環境での困りごと	通学環境の危険、ゴミの不法投棄、空家の防犯、迷惑駐車、ペットのフン・鳴き声等
困窮する家庭が気になる	誰にも相談できない（孤立化）、見えてこない等
地域の高齢者が増加	一人暮らし高齢者、高齢者の買い物、自治会活動へ参加したくても参加できない等
道路・交通への不安	新・保育園周辺での交通の不安、登下校時の子ども達が危険、道が暗く怖い等

【ヒトコト】 櫻井常矢氏（高崎経済大学 地域政策学部 教授）

ぎのわん地域づくり塾アドバイザー

～気づきや勇気を与える地域づくりの促進役としての活躍に期待～



宜野湾市で初のチャレンジとなる地域づくり塾でしたが、とても充実した内容と雰囲気の中かで終えることができました。その要因の一つは、長田区自治会という具体的なフィールドを通して講座を実施できたことです。受講生は本物の地域課題に向き合い、その解決に向けた実践的な提案ができる環境を得ることができました。それにも増して貴重な経験となったのは、実は多くの人びとによる日々の努力によって地域の暮らしが支えられていることを知ったことです。

最終回の成果発表会における受講生と地元長田区の皆さんとの率直なやり取りは、お互いにとって大変意義深いものでした。そしてもう一つの要因は、受講生の皆さん一人ひとりの熱意にあったと思います。実地での調査を重視した講座でしたので、時間の調整などの苦労も多かったと思いますが、各グループが最後までやり遂げたことは本当に素晴らしかったと思います。

さて、講座の成果はこれからが重要です。高齢化・人口減少時代は、まさに丁寧なひとづくりを核とした地域の課題解決力が求められます。受講生が新たな‘チーム’となって、地域・市民の話し合いの場を創造しながら、人びとに気づきや勇気を与える地域づくりの促進役として大いに活躍されることを心から期待しています。

2. ぎのわん地域づくり塾の講義内容

(1) 第1回 <公開講座>ひとを育む地域づくりを進めるために ー市民協働の扉をひらくー

【ねらい】

- ・ 地域づくりのプロセス、コーディネーターの役割の共有

○概要

地域コーディネーター養成講座「ぎのわん地域づくり塾」は塾長（佐喜眞淳市長）の挨拶から始まった。その後、6人程度のグループでの自己紹介を行い、櫻井常矢教授による、「協働による地域づくりとは何か？」について講義いただいた。講義の中で、福島県浪江町等の東北被災地での復興事例を挙げながら、地域コーディネーターとはどんな役割を担うのか、地域づくりのプロセスが重要であること等についてお話しいただいた。

テーマ：ひとを育む地域づくりを進めるためにー市民協働の扉をひらくー

日時：平成28年7月11日（月）19:00～21:00

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

講師：櫻井常矢氏（高崎経済大学 地域政策学部 教授）

参加：73人（学生、自治会、企業、NPO・市民団体、社協、行政他）



73名の参加者が地域づくりについて学ぶ



櫻井常矢教授による講演

～ 塾生の声 ～

- ・ 事例を交えることにより具体的でリアリティがあった。迫力（説得力）があった。
- ・ 解っていても実行できない自分に堂々巡りしていましたが、信念を持って行動する決意ができた。
- ・ 地域に出ていくときに何を心得ていけばいいのか教えてもらった気がします。
- ・ 地域の暮らしをつくるのは、地域の人たちで、コーディネーターが答えを出してはいけないことに気付いた。

(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市長田区の地域課題と実践～

【ねらい】

- ・ 受講生同士が知り合う
- ・ 全7回のプログラムを理解する
- ・ モデル地区の「長田区」について、「地区の状況」「自治会の取り組み」「地域課題」を知る
- ・ 関心のある「地域課題」を選択し、グループに分かれる

○概要

第1回講座の振り返りを行い、塾生同士が知り合うための、「部屋の四隅ワーク」による自己紹介を行った。長田区の地域の現状や自治会の取り組み、地域課題について富濱自治会長にお話し頂き、自治会長より提示された4つの地域課題ごとに、塾生それぞれの関心でグループにわかれ、意見をかわした。

テーマ：地域づくり実践の現場から学ぶ ～宜野湾市長田区の地域課題と実践～

日時：平成28年7月25日（月）19:00～21:00

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

講師：富濱宗俊氏（長田区自治会長）

参加：35人（塾生）



富濱自治会長から長田区の現状、取り組みについて聞く



長田区の課題ごとにグループ分け

～ 塾生の声 ～

- ・ 地域同士で支え合っている現実があるということがすばらしいと思う。
- ・ 常に課題に向き合う姿勢が「人」「資源」がつながるきっかけになるんだと気づき勇気づけられた。
- ・ 個人の抱えている悩みを言いやすい雰囲気づくりが会長の素晴らしい点だと思った。
- ・ 地域に住んでいるキーマンが必要である事を学んだ。
- ・ 開かれた公民館づくりに向けてとても熱心に活動していることが印象的でした。

(3) 第3回 長田区の地域課題に応じたチーム分け 困りごとの「現象」と「原因」を考える

【ねらい】

- ・ 長田区の地域情報・活動・地域課題の共有
- ・ 長田区の課題に応じた4グループから、これから動くチームをつくる
- ・ 「困りごと」の設定、「現象」「原因」「知りたいこと・足りない情報」をチームで出し合い、共有

○概要

前講座で分かれた環境、高齢者、道路・交通、困窮グループからさらに7つのチームに分かれた。各チームで、自分達が解決したい長田区の困りごとについて、現象（目に見える困りごと）と原因（引き起こすもと）、また、その現象と原因について知りたいこと、解決する為に必要な情報を付箋に書き出ししながら、共有した。また、地域インタビューに向けた工夫と配慮について考察し、本講座をファシリテーションの視点で振り返る時間を持った。

テーマ：長田区の地域課題に応じたチーム分け困りごとの「現象」と「原因」を考える

日時：平成28年8月8日（月）19：00～21：00

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

参加：32人（塾生）



7チームに分かれ、話し合いを始めた



現象、原因、知りたいことを付箋紙に書き出した

～ 塾生の声 ～

- ・ 付箋紙に記入していくことで、情報を整理でき、何をどうしていくのかがわかりやすかった。
- ・ 様々な視点の考えや意見がとても興味深かった。
- ・ 最初はイメージがわからず難しいなと感じたけど、4人で話し合えばどんどん広がっていったので、1人で考えるよりは沢山の人が話し合うことが大切だと改めて感じました。
- ・ 話していくと結局は、他のグループとつながることに気付いた。

(4) 第4回 地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

【ねらい】

- ・ 長田区の位置や資源、今後の地域活動・行事・会合スケジュールを共有
- ・ 前回チームで出した様々な何とかしたい「現象」から今回取り組む一つをチームで選ぶ
- ・ 次回のフィールドワークに向けたチームごとの作戦づくり

○概要

前回からの2週間で得た情報をチーム内で共有し、富濱会長から長田区の資源、地域活動・行事・会合について情報提供をいただいた。また、富濱会長、宜野湾市役所、宜野湾市社会福祉協議会への質問時間を設定した。前回チームで出した様々な何とかしたい「現象」（困りごと）から、チームで取り組む一つを選び、次回のフィールドワークでのまちあるき（何を確認・発見したい？）とインタビュー（誰に・何を聞きたい・話し合いたい？）で調べることを書き出し深めた。

テーマ：地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

日時：平成28年8月22日（月）19：00～21：00

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

参加：27人（塾生）



長田区の調査場所を話し合い



まちあるき、インタビューすることを皆で共有

～ 塾生の声 ～

- ・ テーマをもとに色々な意見が出て、とても勉強になった。実際に対象者の立場になって考えると色々な意見がでてきて、楽しかった。
- ・ もっと意見をまとめる方法を知りたいと思った。
- ・ 質問タイムでインタビューのヒントが得られた。
- ・ 他のグループとの共通部分がかなりあることを知った。共通部分と一緒にインタビューするのも良いと思う。

(5) 第5回 フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～

【ねらい】

- ・ 地域インタビューとまちあるきを通して、各チームで設定した「現象」（困りごと）を深めるための情報を得る

○概要

長田区公民館にて 10 時から 12 時までの 2 時間は、長田区自治会、民生委員・児童委員、長田小学校 PTA、子ども会、婦人会、かりゆし会（老人クラブ）に所属する長田区民 12 名の皆さんへインタビューを行った。地域で暮らす方だから見えていることを教えていただき、午後からは、各チームで長田区内をまちあるきをして、取り組む課題の現場の調査や、住民の方に話を聞いた。その後、ふくふくにて、本日得られた情報を模造紙に書出し、振り返りを行った。

テーマ：フィールドワーク ～まちあるき・地域インタビュー実践～

日時：平成 28 年 9 月 3 日（土）10：00～15：00

会場：長田区公民館/午前、男女共同参画支援センターふくふく/午後

参加：27 人（塾生）、12 名（長田区民）



長田公民館で、地域の方へインタビュー



長田区をフィールドワーク、現場を調査中

～ 塾生の声 ～

- ・ 地域活動をしている人は他団体との意見交換の場を希望していた。つなぎ役の必要性。
- ・ 城山団地に訪問し、支え合いがとてもすごく感動しました。
- ・ イメージと現実は違っており、イメージだけで行動する事は危険だと感じた。
- ・ 地域インタビューをすることで聞き手は地域の事を知り答え手は地域の愛着がさらに増す。
- ・ 調べてわかることと、話し合い、聞いて学ぶことは違っていたので、調べて、実際に聞くことを行っていき、より信憑性のある情報を集めたいと思った。

(6) 第6回 地域の課題解決の企画づくり ～ゼミ・中間発表～

【ねらい】

- ・ 各班の最終発表のイメージづくりと内容の作成
- ・ 各班の現状の発表と「質問」「意見」「提案」をもらうことで、足りていない部分を知る

○概要

長田区の地域課題を掘り下げ、課題解決のための企画づくりを午前の時間に各チームで進めた。午後から長田区に貢献する発表を目指し、中間発表を発表時間 7 分／質疑応答 5 分で行った。発表を聞く塾生は、発表チームに貢献する「質問」「良いね」「提案」を付箋紙へ書くことで、お互いの発表に対して意見を交わした。その後、岩田直子氏（沖縄国際大学教授、宜野湾市市民協働推進協議会委員長）から中間発表へのコメントをいただいた。

テーマ：地域の課題解決の企画づくり ～ゼミ・中間発表～

日時：平成 28 年 9 月 17 日（土）10：00～15：00

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

参加：27 人（塾生）



中間発表前の準備風景



チームあ・ん・ぜんの中間発表風景

～ 塾生の声 ～

- ・ 具体的に話を詰める中で新たな意見や見直しが多く、常に前進していくことが嬉しく感じます。
- ・ 各チームの課題や気づきも自分の地域へ反映させていきたいです。
- ・ 地域づくりの具体的提案もあってとても良かった。
- ・ 仮設を立てた後にしっかり関係団体と話し合いをしていたグループがあり困りごとから解決のための仲間づくりまで行っている点がすばらしかった。

(7) 第7回 課題解決のための企画発表 ～修了式～

【ねらい】

- ・ 長田区に貢献する発表を各チームが行い、長田区の住民に受け止めていただくことで、宜野湾市の協働の地域づくりにつなげる

○概要

塾生は午前中に発表準備を行い、午後から企画発表会を開始した。開会あいさつを塾長（佐喜眞淳市長）が行い、長田区をフィールドに3か月間学んだ成果を、長田区の皆さんに向けて、7つのチームが発表した。長田区の方から各発表に対するコメントを頂き、課題の共有を行った。全チームの発表に対するコメントを富濱自治会長、櫻井常矢氏からいただいた。その後、修了式にて、修了証を塾生に授与し、ぎのわん地域づくり塾を修了した。

テーマ：長田区に向けた最終発表・修了式

日時：平成28年10月8日（土）10：00～16：00

会場：長田区公民館

受講生：34人（塾生）、11人（長田区民）、13人（一般参加者）



長田区民の皆さんの前で企画提案発表



修了式、修了証書授与

～塾生の声～

- ・ 本日の発表を聞いて、一人では見ない部分を多くの人をかりて課題を見つけ、問題解決に繋がられるのではないのかなと思いました。
- ・ 地域をしることの難しさがありますが、取って知る、まず知る事の大切さを理解しました。
- ・ たくさんの学びをさせてもらいました。地域住民を主に展開できるように色々挑戦していきたいです。
- ・ すでにあるこれまでの取り組みや努力へのリスペクトの大切さを改めて見直せた。

【企画発表に対する長田住民のコメント】



看板設置の流れを作っていたので、この流れで他の場所にも設置していけると思う。チームあ・ん・ぜ・んに生まれた愛が、地域にも広がっていけるようにしたいと思いました。



高齢化率も上がってきて、近所付き合いはますます難しい時代になっている中、このような企画を頑張ってくれた。皆で理解し合う地域づくりをして、繋がりを作っていこうと思う。



長田区に 50 年住んで、民生委員として 12 年活動していても、気づかなかったことを発表頂いて嬉しいです。



取り上げていただいた道は孫と歩くことが多い道だが、ガジャンが多い、ジャカジャカしてる、怖いとっていて、取り上げて頂いてとっても嬉しいです。有難うございました。



長田区は他地区に比べて困窮世帯は少ないが、長田区民がもっと協力していかないといけないと思いました。



集まりに参加する男性は少なく、男性の方も気軽に、参加できるようになれば良いと思いました。



高齢者の買い物は、スーパーまでの道が悪く、移動販売の提案など、とても良いことだと思いました。

【ヒトコト】多和田真光氏（宜野湾市社会福祉協議会会長）主催者**～次世代につながる地域づくりと地域福祉の推進に向けた取り組み～**

本会では、市民一人ひとりの個性や考え方が尊重され幸せに暮らしていけるよう、住民相互の支え合いをとおし、「人を支える喜び」「人に支えられる喜び」を住民自らが実感できるまちづくりの実現に向け、地域福祉活動を推進しており、「地域支え合い活動委員会」や「ミニデイサービス」等を実施し、地域で支え合う仕組みづくりに取り組んでいます。しかし、これらの取り組みは、「活動に参加する方は同じ顔ぶれ」、「活動する方の高齢化」「働き盛り等の若い世代が参加できない」等担い手の不足が課題であり、地域活動の担い手の発掘や育成、その発掘した担い手を地域へと「つなぐ」地域コーディネーターの活躍が期待されています。

「ぎのわん地域づくり塾」では、地域コーディネーター及び活動実践者の育成において、地域と新たな関わりや、塾生間等のネットワークの構築、また、地域課題の発見や解決に向けたアプローチをとおし、塾生が地域に関わる意識を大切に取り組めたことは大いに評価でき、今後の地域での活動に期待しているところです。

今後も、「地域づくり塾」をとおし、塾生が、地域に関わる「ひとりの住民」としての意識を高め、回を重ねながら塾生のネットワークを形成し、地域と様々な分野の方々を巻き込みながら、次世代につながる地域づくりと共に地域福祉の推進に向け取り組んでまいります。

3. 長田区の困りごとに応じた企画提案

(1) 志真志四丁目ローソン裏スージグワー美化推進計画

ーチームバックストリート・ボーイズ（クシヌスージヌニーセーター）ー

【企画概要】（企画書と発表スライドを基に事務局が作成）

○目的	「皆がワクワク楽しいと思える地域づくり」を理念に、スージグワー(小さなあぜ道)(以下：スージ)を皆が気持ちよく歩け、周辺住民が自主的、持続的に管理、利用できる状態を目指す。道路舗装整備のみを目的とはしない。
○現状・背景	志真志四丁目ローソンの裏には、住民が生活路として活用しているスージがあるが、草もボーボー伸び放題、雨が降れば冠水してしまい、ポイ捨てや違法駐車も多く、住民からの相談がある。しかし、役所では「川を埋め立てただけの場所なので、歩道や道路という区分としては取り扱えない」として、管理者がハッキリとしていない。住民から相談や要望が入ると、役所がたまに草刈りをしてくれるぐらいの状態が続いている。自治会では年に2回区内清掃を実施しているが、班の弱体化により清掃への参加者もいない状況がある。自治会、住民、行政で話し合いの結果、行政が今年6月頃にある程度の補正整備をした。
○内容	<p>「住民に周辺住環境について興味関心を持ってもらう。」ことに焦点を置き、壁画コンテスト、住民と一緒に簡単な整備などに取り組む、道沿いに菜園を設け、収穫した野菜などの直売所で販売する、などの提案をした。しかし、アイディアの押しつけにならないように、加えて、住民自らの問題意識を掘り起こし、解決策と一緒に考え、実行する必要がある。それを実現するために、まずは地域のキーパーソンを集めてのユンタク会を開催することを提案した。</p> <p>地域コーディネーターとして出来ることとして、立場の違う方たちを同じ土俵にのせるための事前ヒアリングや意識調査。ユンタク会の場でのファシリテーション。問題解決のためのお手伝い。各事業団体とのパイプ役。一緒に楽しむこと。誠意と忍耐をもって、住民や関係者の話を聴く、等を挙げた。</p>



メンバー氏名	所属
東 圭子	やまがっこう
富濱 宗俊	長田区自治会
宮城 祥	(株)カルティベイト
小野寺 明夫	有限会社ウルマプロデュース
盛長 健	宜野湾青年会議所
上原 一哲	学生



環境チーム
「志真志4丁目遊歩道の問題」

★知りたいこと

- ・企業 ~~地主~~の本音
- ・地主の意見(不動産含む)
- ・近隣住民の意識
- ・行政の役割

★ル+ (確認・発見)

企業 ~~地主~~ ~~本音~~ → 近隣住民
とそれぞれの立場の本音や意識を確認。

★インパ一

- ・企業 ~~地主~~の代表者 → 現状を知ってもらう
- ・企業 ~~地主~~の代表者 → 地域への協力
- ・地主(不動産含む) → 現状を知ってもらう
- ・地主(不動産含む) → 現場にたいの要望(現状維持)
- ・近隣住民 → 現場にたいの意識・要望(改善)
- ・近隣住民 → 現状を知ってもらう・地域への協力意識
- ・近隣住民 → 地域問題等の相談窓口の認知

★準備しておく

- ・企業 ~~地主~~の本音・質問事項を把握
- ・チーム内情報共有
- ・図面MAP
- ・PVA用紙
- ・役割り分担(チーム内)
- ・趣旨説明文

★午前のインタビューでわかったこと

- ・志真志4丁目の遊歩道の存在自体知られていない?
- ・公園が狭い
- ・小学校のハザードマップにのっていない可能性
- ・道路がせまく危険で抜け道が多い
- ・夜朝夕、スピード出する車が怖いので
- ・児童や高齢者が安心して歩けない
- ・高齢者の移住が怖い

★癒しロードが谷川といと
書り町会会長が言った。

★まちあるきで発見したこと

- 癒しロードに活用できる?
- ・イベントなども実施できないか?
- ・子どもを中心とした地域づくり

(2) 夜、子ども達だけで過ごしている世帯を何とかしたい!!! —我如古チーム—

【企画概要】(企画書と発表スライドを基に事務局が作成)

○目的	長田区に住む子どもへの居場所をつくることにより、子どもとその保護者が地域の一員として自覚がもてるような体制づくり(孤立を防ぐ)を目指す。また、日ごろから関わることで支援が必要な子や親への変化に気づいたり、相談できる関係性を構築する。
○現状・背景	沖縄県では子どもの貧困率は29.9%で、全国平均の16.3%と比較して、大きく突出しており、極めて深刻な状況である。そんな中、「長田で夜子どもだけで過ごしている家庭があると聞いた」というメンバーの問題提起から長田区の子どもの実態をまち歩きや地域の方へのインタビューを通して把握しようと試みた。地域の方へのインタビューの中から「ひとり親では、仕事に子育てなどでとても忙しく日々の生活に一杯いっぱいな方もいる」という声や、各種団体間において子どもの状況把握に差があったように感じた。さらに、自治会長より「長田区のまちづくりは子どもがキーワード。地域が子どもと関わることで関係性ができ、子どもの変化にも気づくことが出来ると思う」という思いを伺った。
○内容	<p>テーマ「長田区子ども食堂(仮)」の立ち上げ</p> <p>いつ：毎週土曜日のお昼から夕方</p> <p>どこで：長田区公民館</p> <p>誰が：長田区に住む子ども、保護者、ボランティア(料理が好きな人など)</p> <p>何をする：食事の提供や共同の調理、生活指導</p> <p>Point 経済的に食事の不十分な子どものみならず、皆で食べることで孤食を防ぐという視点。子どもの安心感を生み、コミュニケーションが生まれ笑顔が増える。子どもたちが公民館に来やすく、またその親も集まりやすいので、そこで交流が生まれたり話し合いの場が生まれる。</p>



メンバー氏名	所属
比嘉 結菜	宜野湾市社会福祉協議会
福里 百恵	子ども育成会
松田 暁子	我如古区婦人会
宇田 奈緒美	嘉手納町役場
新垣 真弓	宜野湾市PTA連合会
比嘉 将人	宜野湾市役所



夜、子どもたちだけで“過ごしている”世帯を何とかしたい!!! (我如古チーム)

知りたいこと: 現状や実態 (家庭状況)

まちなぎ: 公民食官 → サイエ → かずストア → ココンビニ (4ヶ所)

お店の人に、実態 (何時ごろ集まるか? どんな様子か、子ども年齢層、声かけ等の関わり等)

インタビュー: 自治会長, 書記 (子ども会会長), 青少協, PTA関係者, 民生委員・主任児童委員

- 地域で子どもたちだけで過ごしている現場を見ることがある?
- 気になる世帯として訪問したことがある? どのような? 家の様子?
- 実際、このような相談を受けたことがある? 親の本音

我如古チーム

インタビューで分かったこと

婦人会
 中高生のタム口がみられる (志真志公園) (夜10:00以降、外灯消灯)
 小学生はみかけない。

かりゆし会
 中高生は公園やマンションの階段下でたむろしているのを見かける。見たら、声かけで帰宅を促している。
 子どもたちだけで過ごしている世帯を発見。(活動中)

民生委員・児童委員
 学校からあげてきた情報をもとに、パトロールや訪問している。しかし、直接世帯への介入は難しい。
 親からの相談 (経済的など) もない。関係性がなく。

自治会長
 他区に比べて困窮世帯は少ないと感じる。(昔、給食費未納あり)
 若い世代は相談場所として自治会を選ばない傾向。
 小さい時から関わることの大切さ。顔見知りになる大切さ。自然発生的に

PTA・子ども会
 関係性がないとプライベートな話ができない。
 ひとり親世帯の話。とにかく時間がなくて忙しいだけ。子育てに一生懸命なっている姿がみられる。周りのサポートが大変

まちなぎで発見!!!

☆ コンビニ 2軒
 ・たむろはない。
 ・コンビニ建設ムズかしい地域

☆ かずストア
 ・10年前は子どもが集まっていたけど、今はない。

☆ 公園 2ヶ所
 ・4ヶ所
 ・4ヶ所
 ・4ヶ所

(3) 歩く社会資源の育成～高齢者の孤立・貧困～ —チーム安田—

【企画概要】(企画書と発表スライドを基に事務局が作成)

○目的	地域での孤立を防ぐために、近所や地域と顔が見える環境、困ったときにすぐ相談できる環境を作ることを目的とした。
○現状・背景	近隣の目を気にして、困っているにもかかわらず、相談に踏み出せない世帯がある。高齢になったことにより、公民館への行ききが減ってしまった。(本人の悩みを拾える状況にない。)
○内容	<p>誰でも気軽に行ける居場所づくり、困ったときに相談することができる環境づくりを行うために、①～③等を提案した。</p> <p>①顔見知りの関係づくりのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所の充実 <ul style="list-style-type: none"> 公民館を活用している活動の充実 公民館以外の居場所の展開 <p>②困ったときに相談するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉関係者、地域(自治会や民生委員など)の連携! <p>③すぐに出来ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ(家族、友達、近所の人) ・困っている人へちょっとした声掛け ・地域行事への参加 <p>そして、地域づくり塾に出た『高齢者に関するテーマ』からでも市役所、包括支援センター、社協、自治会で情報共有する場を作ることから始め、人が繋がり、誰でも気軽にできる地域づくりを進める為に、テーマに合わせたプロジェクトチームを結成することを提案した。</p>



メンバー氏名	所属
大城 周子	大謝名団地自治会
宮城 章乃	宜野湾市役所
赤 嶺 舞	宜野湾市社会福祉協議会
安村 真奈美	宜野湾市社会福祉協議会
小浜 裕子	宜野湾市スポーツ推進委員
大工廻 真梨	宜野湾市社会福祉協議会



● 知りたいこと

『孤立防止』
～人づきあい・関係づくり～

どうして孤立しているのか?

① 人づきあいにはお金がかかる?
② 人とかかわる手段が分からない
③ 経済的に困っている

● インタビュー

① 自治会長・老人会長
② 民生員
③ 民生員

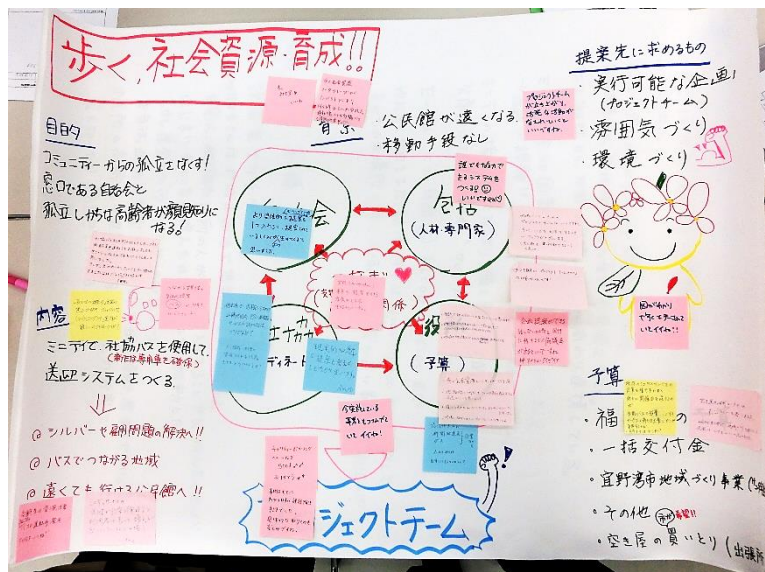
チーム 安田

🌸 インタビューから得たこと。

- 世帯間体が長に降り、やるべき手続き等にふみこめない。
- 本人より周りの人が気にかけて、自治会長に相談。自治会長から、関係機関につなぎ、最善策をまとめる。
- トースト相談から、地域と包括、社協が関わり、連携している。
- ミニデイの参加困難者は、ボランティアが送迎している。→送迎が課題!! (車が必要。サビスがあたり、いい車。)
- ミニデイの援助員に、利用、顔も覚えられ、関わりやすくなった。欠席者には、"どうしてね?" など声かけをおこなっている。
- E-ho にて 毎週 14:00 ~ 16:00 まで ゆんたくサロンを開始!! 16:00 ~ 18:00 まで開放して子どもの居場所も考えている。→地域に近しい事業所になりたい!!!

🌸 F W で得たこと。

- 理容室ナカチへ訪問。
- ナカチさんは、巴城山団地で世話係さんになっている。自宅に、近所の人が、よく出入りすることから、ゆんたく会がはじまり、参加者が増え、E-ho に移動した。しかし運賃の払いがまだ難しいのが困ること。本日は、近所の空家を活用した方が気軽に集まりやすい。→近所の高齢者や理容室へ来れない人のお家で集まったり、送迎をしている。



(4) 人暮らしの高齢者（男性） — 認知症・1人暮らしチーム —

【企画概要】（企画書と発表スライドを基に事務局が作成）

○目的	孤立を防止するために、他の人との交流・居場所づくりにつなげていく。それを健康維持につなげていきたい。
○現状・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を退職した後の人とのつながりがない方もいる。（まだ若い・・・、地域活動のイメージ） ・他の人と関わりたいと思っはいるが、一歩踏み出すということがなかなかできない。 ・ミニデイなどに参加できない理由が、金銭的な面である。外に出たくても、なかなか出ることができない。
○内容	<p>家族や地域のつながりが希薄になる中で人とのつながりをつくるきっかけづくりが大変重要になるかと考え、①誰でも、②気軽に、③楽しく、のもと、「残りの3分の1の人生を自分らしく enjoy しよう！」をキーワードに、以下に記載した地域づくりを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火曜日のミニデイ後、利用者同士（同じ趣味の人）で趣味の事を行う。 ・2か月に1回くらいの割合で、団地内、同区の住民同士でミニイベントを行い、交流を図る。 ・常時、市役所内で特技のある方、一緒にやりたい事を探している方を募集し、その方の自慢できることを教えてもらったり、一緒にやる方を探すためのつながりを作っていく。 ・月2回くらい公民館などを利用し、同じ趣味の方（年齢は関係なく）集まって活動する。そして、発表の場を年1回作る。



メンバー氏名	所属
新川 裕美	社会福祉協議会 登録ボランティア
仲村 祐史	宜野湾市役所
石原 秋絵	宜野湾市社会福祉協議会
與儀 清子	市民

困り事 / 1人暮らし高齢者 認知症高齢者

現象

① 孤立

チームメンバー
(仲村 石原 子儀 新川)

原因

<ul style="list-style-type: none"> ○ 1人暮らし ○ 人見知り ○ 死別 ○ 家族が近くにいらない ○ 相談できる人がいない ○ 行き場がない ○ 声をかけてくれる人がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役割がない ○ 興味をもてるものがない ○ 別の地域から引越ししてきて、知り合いがいない ○ 話相手がみつからない ○ 同窓とのつきあいがいい ○ 自治会に加入していない ○ お金がない
--	---

現象と原因を深めるために知りたこと・調べられること

地域インタビューに向けた工夫・配慮 / 誰と話したいのか?

調べられること

- 自治会
- 一人暮らししている高齢者の数
- いつから長田区に住んでいるのか
- 元々、長田区に住んでいる人の数
- 自治会加入率 23%

(包括) 1人暮らし高齢者が困っていること

- 近所が「さあいい」があるのか
- 自治会活動に参加できない理由
- 気軽に相談できる場所があるのか
- 家族・親族・友人が近くにいるのか
- 何か活動していること、参加しているものはあるか (仕事、ボランティア等)

調査

- 高齢者が集まっているような場所 (福祉(中心))
- (例) ミニマ ランチ提供の場所、カフェ、マツ、町会、倉庫、お茶



午前中のインビューでわかったこと!

婦人会が全部の団体とつながっている(地域の母親役)

- ミニデイ等、外に出られぬ理由にお金がある!
- ミニデイ参加できない理由 (知り合いがいない / 生活を知られてくれない / 自分の事を知られるのが嫌 / 性格(規則)違反 etc...)
- 家族のネットワークが強い (買物の支援...)
- 介護保険のサービスを使っていない (手帳とか面倒 / 家族に迷惑をかけたくない等)
- かりゆし会(老い会)が会員を周回している。(1人20件程)
- 老人会が物品販売をしている (見守りも兼ねて 1/月)
- 長田区は、外にいる高齢者が少ない
- 仕事を退職した後の居場所がない
- 出張や出張先がなかったらいい
- 隣近所で見守りしている人がいる
- マンション・アパートが増えどこにどういう人が住んでいるかわからない
- 個人宅には、理由がわからない(見守り)
- 1人暮らしの給食配達をしている人(3名)
- ボランティア・カラオケ・ランドゴルフ等をしている

午後の「まちあるき」で発見したこと、確認したこと

- 城山団地を散策し出会った人は2名
- 団地内で集まりがあり、年間行事をやり活動している
- 公民館が遠いという人が多い
- 足や手が不自由で外出できない
- 出かける時は、息子に車まで迎えをもらっている。(買物)
- 庭のある家が多かった。(家で園芸? 畑?)
- 集まる場所 があるといい...
- 空屋を交流の場としている
- 交流の場に(Ina)に期待している

(5) 近所づきあいが遠のく ーチーム近所づきあいー

【企画概要】(企画書と発表スライドを基に事務局が作成)

○目的	“高齢者が近所付き合いをよりよくするためには”との事に関心があり、公民館から遠いところに住んでいても気軽に集える場所がほしいと思う方々を、全力サポートすることを目的に行った。
○現状・背景	<p>長田区のいいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動が活発 ・近所のことをよく知っている中心人物がいる ・中心となる人物を把握している ・公民館から遠い地域でも近所の人たちで集まれるような工夫をしている ・訪問活動を積極的に行っている ・イベントが多く、住民が顔を合わせる機会が多い ・空き家を活用して集まりなどを持っている
○内容	<p>地域のまとめ役となる方々が活動しやすい以下の①～⑤の環境づくりを行うことで、地域の近所付き合いが広まっていくのだと考え、歩いて行けるゆんたくサロンを行うことを提案した。</p> <p>①運営メンバーを結成(地域をよく知る方、かりゆし会・婦人会、青年会・子ども会の方など)</p> <p>②場所を提案(自宅、庭先、空き家)</p> <p>③自治会からの全力サポート(1回の集まりにつき、1000円程度を自治会から運営メンバーへ給付)</p> <p>④自治会加入者・そうでない方関係なくだれでも利用OK♪</p> <p>⑤運営メンバーの負担にならないために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会と運営メンバーで定期的な意見交換会 ・一つの居場所を2～3人のチームになって活動する



メンバー氏名	所属
伊波 常憲	市民
翁長 笑花	宜野湾市社会福祉協議会
城間 一輝	沖縄国際大学2年
金城 均	嘉数ハイツ自治会



チーム★近所づきあい♡

★伊波 帯寛 ★金城 均
★城間 一輝 ★翁長 笑花

〈午前中のインタビューでおかたこと〉

かりゆし会

- 退職年齢が*上昇することでかりゆし会への加入が難しい
- 高齢者に優しくない道路事情
- 公園が少ない

婦人会

- 住民と自治会の仲介役
- 女性*性パワーのすごさ!
- 定期的に工夫をして活動を行っていた

民生委員(志業社1.4)

- 近所づきあいが良好子
- キーパーソンがいた(高齢者)
- 子育て世代が少ない
- 保育園がなくなったことで子どもを巻き込んだ地域づくりが難しくなった

〈まちあるきで気付いたこと〉

- 今日のレポートには小規模緑地があった
- 起伏が激しかった
- 城山団地のイメージが違った
- 人が歩いていなかった
- 交通安全上の問題あり

チーム★近所づきあい♡

〈テーマ〉

・近所づきあいが遠のく

知りたいこと

- 比較的、近所づきあいの良い所
- まちあるき
- 高齢者が集まっている場所めぐり ●城山団地

インタビュー

- 班長さんに各班の特徴を聞く
- 民生委員さんに高齢者について聞く

〆までにやること

- 8/30 打ち合わせ(チームで)

言調整してほしいこと

- 民生委員さんや班長、かりゆし会の会長に来てほしい。(城山団地の方も..)
- ミニダイの代表者の方にも来てほしい

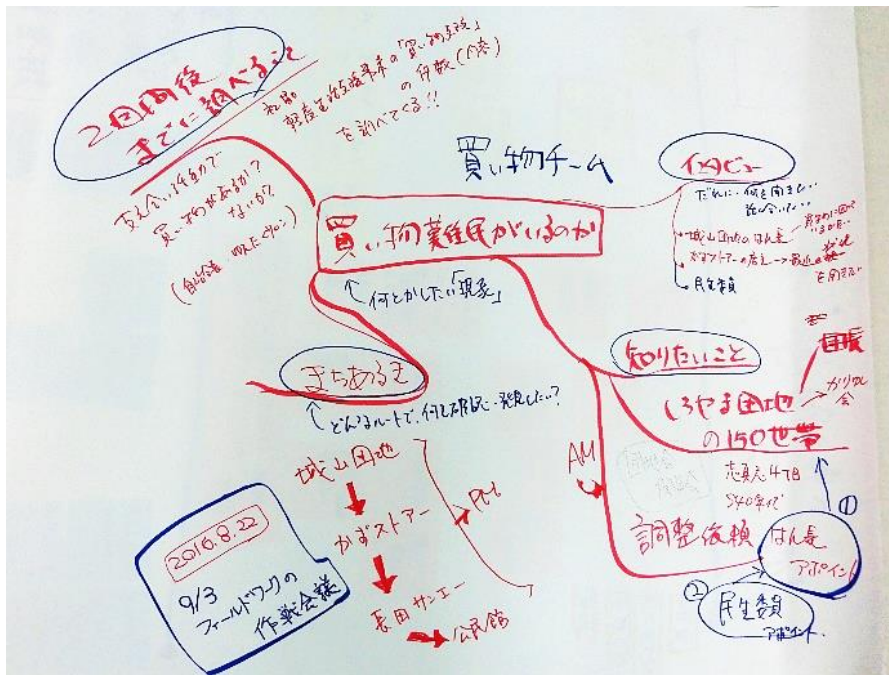
(6) 長田区に買い物難民はいるのか!? —買い物チーム—

【企画概要】(企画書と発表スライドを基に事務局が作成)

○目的	<ul style="list-style-type: none"> ・長田区の高齢者の実態を知ること！ ・日常生活を送るうえで必要となる買い物に関して興味があり、実態を把握したい。
○現状・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・長田区城山団地には高齢者が多く住んでいる。 ・長田2丁目は住宅が多い。道は狭く、起伏が激しい、入り組んでいる。
○内容	<p>○事前調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の軽度生活支援事業の実態（対象者：65歳以上の高齢者で日常生活に不安を抱える方）：長田区に関しては対象者なし（買い物に関してのみ） ・ゆんたくサロンでの聞き取り：火・木／2回／週 コープ（生協）を利用している。家族が近くに住んでいるため、買い物に困らない。古くからの近所付き合いが親密にあり、困ったときは支え合っている。 <p>○インタビュー調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長田区は家族のネットワークが強いため、見守り体制が充実しており、買い物にはあまり困っていない。しかし、民生委員の方もどこに、どのような状態の高齢者がいるか把握できていない。行政や情報を把握しているところから情報があれば欲しい。 <p>○まち歩き調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通量が多い。道幅は狭く、歩道もないため高齢者カートを押して歩くには危険だと感じた。 <p>○調査の結果（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想していたよりも、買い物に困っている人はいないのが実態であった。現在は、家族や近所の協力で成り立っているが将来的に高齢者が増加した場合の不安はある。また、細かい箇所までの把握が難しいのが現実と感じた。地道な調査、地域に根差した調査が必要と感じた。



メンバー氏名	所属
大城 大悟	(有)ケアステーション マナ
長濱 神奈	宜野湾市役所
谷本 多津子	宜野湾市社会福祉協議会
伊禮 結乃香	宜野湾市社会福祉協議会
手登根 廣和	宜野湾市社会福祉協議会



買い物チーム

インタビュー

- ★ ゆんたくサロンの頻度が月1回なので、あまり親密にならない。(毎回顔合わせの状態)
- ★ ミニデイに参加している方は、出身地ごとに仲の良い人達でかたまると感じる。
- ★ 買い物が不便な地域は、志真志4丁目の城山団地。150世帯ほどあり、平均年齢が75歳以上。
- ★ 民生委員の方も、どこにどのような状態の高齢者がいるか把握できていないので、国勢調査等の情報が欲しい。
- ★ 長田区は、家族のネットワークが強い為、身守り体勢が充実しており、買い物にはあまり困っていない。

まちあるき

- ★ 城山団地を歩いて、迷路みたいに入り組んでいて、道幅は狭い。車の通りが多い。
- ★ 長田小近くの長田2丁目には、坂道が多く、起伏が激しい。道幅も場所によっては狭く、歩いて買い物に行くのは不便だと感じた。
- ★ 業務用スーパーの通りは交通量が多いが、道は狭い為、高齢者がカートを押して歩くには危険だと感じた。

(7) 長田小学校区スクールゾーンの交通危険度が高い —チームあ・ん・ぜ・ん—

【企画概要】(企画書と発表スライドを基に事務局が作成)

○目的	<p>地域を支える団体が、共に楽しく取り組む交通安全の基盤づくりをする。</p> <p>取り組みの基盤：「地域が主人公」、「人・力・資源が繋がる」、「楽しく続けられる」</p>
○現状・背景	<p>長田区域内の主要道路として、長田小学校を中心に南側に県道32号線、北側に市道長田愛知線があるが、市道長田愛知線はスクールゾーン(時速30km以下制限)設定されているにもかかわらず、道路の勾配・形状から速度制限を超えた車両が多いため、長田小学校児童の登下校や道路横断の際の危険性が高い区域として自治会、PTA、宜野湾警察署に認識されている。</p> <p>また、平成28年4月には、認可保育園「どんぐりの里保育園」が開園し、同年内には、長田区学習等供用施設と児童館の複合施設が完成することから、今後の本区間における未就学児を含めた児童・区民の往来が、ますます増加することが見込まれ、長田小学校区スクールゾーンの更なる交通安全対策が求められる。</p> <p>○現状分析から見えた3つの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全に取り組む団体同士うまく連携が図れていない。 ・制限速度(30km/時)があるが守られていない。 ・朝・夕、子ども達の交通安全に対する意識のバラつき。
○内容	<p>○3つの課題の対策案</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域を支える団体(キーパーソン)をつなげる。 ②交通安全看板設置 ③交通安全クイズ王決定戦、標語コンクール、看板製作/設置 <p>上記の対策を進め、成果として、地域を支える団体の関係性が深まり、4団体連名で看板設置要請書を作成することで、地域協働で看板を設置予定となった。話し合いの中で新しい取り組みの提案が出た。等の成果が得られている。</p>



メンバー氏名	所属
村本 雄一郎	宜野湾市役所
普久原 朝亮	宜野湾市役所
我如古 由美	宜野湾市役所
宮城 エリカ	市民
仲程 達司	宜野湾市社会福祉協議会



チーム あん・せん

長田小～新公民館までの
交通危険度が高い！

○どの時間帯が交通量がバツイカ
○交通誘導(安全指導)の配置
○交通安全点検の内容をくわしく知りたい(資料等)
○地域でのとりかみ(点検後)
○TPOでスピードが出るのか

ルート・長田小～新公民館前
(インタビュー対象者)

AM 登下校安全10人10人隊	危険箇所 保護者の意見・要望 今の対策 新しい施設の周知と認知度
PM どんぐりの里の保育園 長田小学校 近隣住民	

チーム あん・せん

午前中のインタビューでわかったこと

- 交通誘導員の子ども達の安全に対する意識の高さ
- 午前中の子ども達の交通ルールの意識の高さ
- PTA会長は交通安全の意識が高く他団体との意見交換の場を求めている
- 地域のそれぞれの団体が問題意識をもっており対策が必要だと感じていた。
- 横断歩道はあるが、交通量、立地の問題から、別の横断歩道を案内していた。

またあることでわかったこと

- 歩道の狭さ(75cm)
- 公園入口の見通しの悪さ
- 小学校前の見通しが悪い(カーブがある)
- 保育園の建物が認識しにくい
- 交通安全看板はあるが角がせいで
- 保育園長の危機意識が高く、話し合いに協力的
- 信号機の色が可変変わる。(19秒)押しボタン式

登下校安全10人10人隊
DATA (データ) 30 ⇒ 14.15

- 交代要員がいない
- 朝(登校時)の活動がない
- PTAとの連携が弱い
- 情報共有が難しい(活動の)

【ヒトコト】佐喜眞淳塾長（宜野湾市長） 主催者**～協働による住み良いまちづくりの実現に向けて～**

宜野湾市で初の取り組みとなります。地域コーディネーター養成講座「ぎのわん地域づくり塾 2016」が開講され、地域の課題解決のための主体と主体をつなぐ貴重な人材を育成する機会を創れたことを大変うれしく思います。

本市では「協働によるまちづくり」の考え方や具体的な取り組みについてとりまとめ、推し進めているところでございます。この「協働」という手法を用いて、1つの組織、団体では対応できない課題を、市民、自治会、NPO、ボランティア団体、市民団体、企業、教育機関、行政などが、お互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、地域課題の解決に向けてより進んでいくものと考えています。

高齢者の増加に伴う介護、子どもの貧困・居場所づくり、災害・防災の対応などの様々な問題がある中、この「ぎのわん地域づくり塾」で学んだ知識やコーディネートスキルは、地域の課題解決の実践の場で、活躍できるものになっていると思います。また、修了生による地域コーディネーターとしての活躍が徐々に全域に広がることで、本市の市民協働推進基本指針の理念でもある「誇りと愛着の育まれるまちづくり」が実現され、住んで良かったと思えるまちづくりにつながることを期待してやみません。

4. 塾生アンケートまとめ

(1) アンケート概要

- 調査方法：ぎのわん地域づくり塾の修了式後、塾生にアンケート用紙を配布して回答を得た。当日、回答を頂けなかった方には、その後、メール又は FAX にて、アンケート用紙をお送りいただいた。
- 回収結果：第一期塾生 36 名、回答数 23 名、回収率 64%
塾生 36 名のうち、23 名の方にアンケートをご回答いただいた。回答者の年代は下記表のように幅広い年代の方にご回答いただいた。

表 アンケート回答者の年代

年代	60代	50代	40代	30代	20代
人数	3	2	3	7	8

(2) 各設問項目の結果

設問1) 2) については、5段階評価でご回答頂き、その他の設問は自由記入で回答いただいた。その結果について以下にまとめた。自由記入については原文のまま記している。

設問1) 開催期間、時期について

今回の7月～10月の3カ月間の開催期間について、5段階評価をいただいた結果、満足：35%、やや満足：44%となり満足度は高いといえる。「開催時期はいつがいいですか？」との問いには、今期と同じ：16名、別の期間、4名、無回答：3名であった。別の期間と答えた方は、6～10月（3ヶ月は短く感じて、スケジュールが厳しかったため）、6～9月（10月以降に仕事が忙しくなる為）、7～9月（短期集中型で7～9月なら学生も夏休みなので参加しやすいのかなと思った）との回答があった。

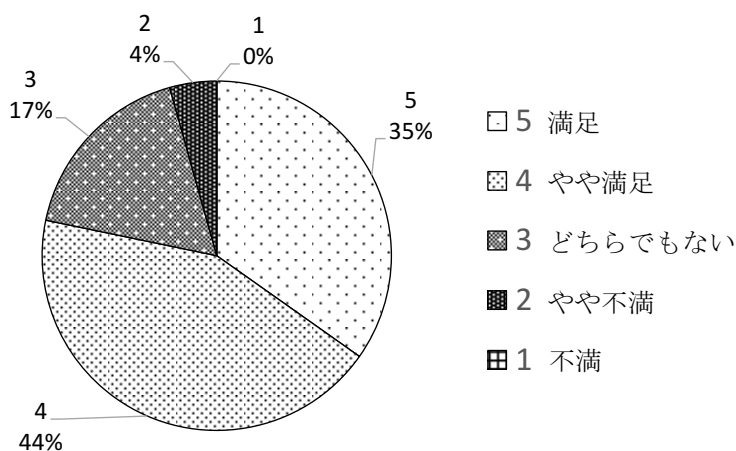


図 開催期間の評価（5段階評価）

表 開催時期はいつがいいですか？

開催時期	人数
今期と同じ7～10月	16
別の期間	4

設問 2) 講座について

講座の回数（全 7 回）、全体的な講座内容、1 講座の時間設定（120 分目安）に対する評価を 5 段階評価でいただいた。講座回数、講座時間に関しては、満足と回答した方が最も多いが、やや不満と回答した方が 2 名いた。

また、各講座の満足度に関しては、満足、やや満足と回答いただいた方が大多数だが、第 5 回フィールドワークの講座でやや不満と 1 名の方が回答している。その理由として、「まちあるき、インタビューの時間が短いと感じた。」との記載がなされている。

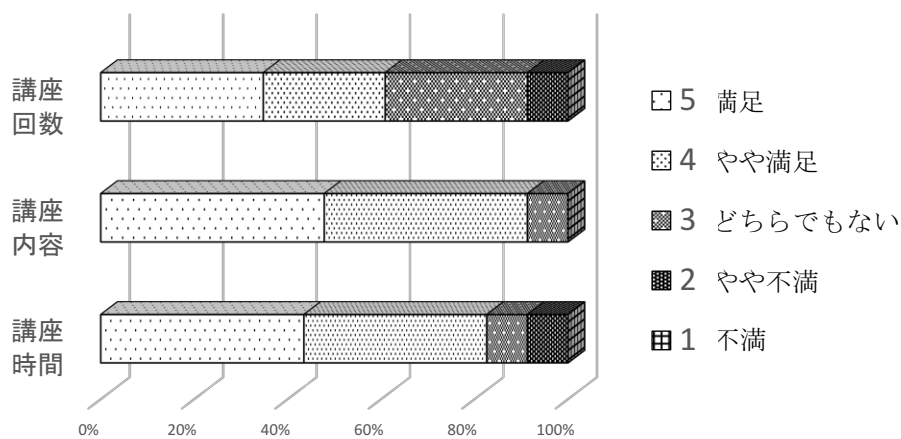


図 講座の設定に関する評価 (5 段階評価)

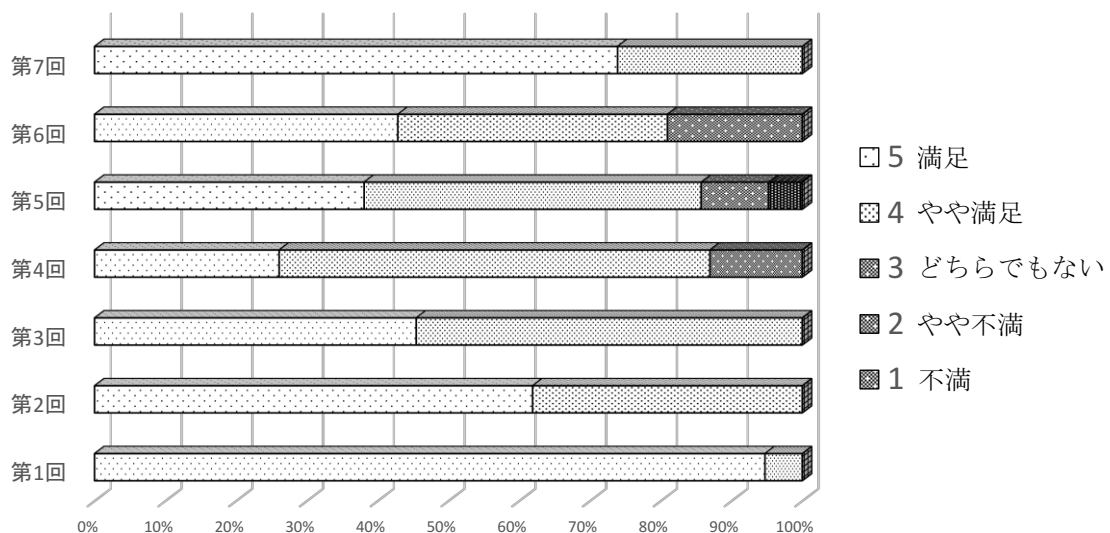


図 各講座の満足度 (5 段階評価)

表 各講座の満足度 (平均) (5 段階評価)

講座	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回
満足度 (平均)	4.9	4.6	4.5	4.1	4.2	4.2	4.7

設問3) チームで企画を考えていくなかで、今回の提供講義以外で必要と感じた内容や改善点はありますか？

○要望

- ・テーマに関連する市役所の係や関係機関ともヒヤリングしてみたい。
- ・まち歩きの見点についてももう少し情報提供して欲しかった！また、住民ニーズの把握の事例等も知りたかった！
- ・コーディネートの能力を向上させるために必要なノウハウ等をもう少し講義の中で学ぶ場が欲しかった。

○提案

- ・話し合いの場として日程を増やすのもいいと思います。
- ・宜野湾市内で実際に活動している個人・団体のリーダーなどを中心とするチーム作りが良いと考える。
- ・限られた講義の中以外で、調査やまとめる時

間がもう少しあっても良かった。メンバーそれぞれ仕事をしているので厳しい、。密に連絡がとれたら良かった。

- ・もう少しワークショップ形式があってもいいように感じました。

○感想

- ・まちあるき、インタビューの時間が短いと感じた。
- ・(土)の講座は参加人数が少ないと感じた。また(土)に午前～午後(1日)は家庭を持つてる人や全体的に辛い部分があると感じた。
- ・時間、回数が少なく、かけ足となった。しかし、間延びしてもNG。
- ・地域での活動の仕方等まで詳しく学べたので、特にありません。

設問4) 今回設定されていなかったカリキュラム以外で、学びたいテーマ

- ・生涯学習
- ・若者との交流のようなテーマ(大学生)
- ・資料づくりの勉強(プレゼンや、統計の作り方)
- ・社会調査
- ・地域課題をアンケート等によって定量的に把握する方法？調査？
- ・ワークショップ
- ・会議を円潤に進める為の手法
- ・ファシリテーション、ファシリテーターとしての心得
- ・コーディネートの力
- ・地域づくりを進めるうえで効果的な企画書の作り方
- ・うちなーぐち講座

設問5) ぎのわん地域づくり塾のプログラムを通じて、どのような学びがありましたか。また、これからの活動にどのように活かしたいと思いますか。

○新たな繋がりによる学び

- ・仕事では、なかなか会わないような業種の方と知りあうことが出来た。
- ・人とつながりたい、地域づくりはとても大切と思われている人が、こんなにも多くいることがうれしかった。チームで取りくみ考えていくことで、チームワークや繋がりはいいい仲間づくりになりました。講座日以外での集まりも多くなり、大変(時間を合わせたり等)でしたが、私自身の多くの学びの場となりました。
- ・多くの事業所や、地域の方と交流できた事が、一番の学びだと感じます。
- ・様々な業種の方々から異なる視点があり、また同じような考えや意識のある方々が多いことも新たな発見だった。
- ・いろいろな場面で様々な方々と話し合いを重ねることで、多角的な物の考え方や柔軟な発想が少しは身に付いてと思います。今後の地域でのワークショップやユンタクの会に参加して、更に視野の幅を広げたいと思います。
- ・普段の業務でも役立つ横のつながりができてとてもよかったです。

○企画づくりによる学び

- ・何かの企画をすすめていく上での段取りをおおわくで学ぶことが出来たので活かしていきたい。

○地域づくりに対する学び

- ・今回のプログラムから触発を受け、地域づくりへの関心が深まった。地域づくりに対する愛着が再度生まれた。
- ・自分たちが困っていると思っていることと、実際に調べてみて解ったことは違っていた。

“答えは地域の中にある”

- ・地域主体による街づくりを形成する中で、市民活動の把握と具体的な解決策に導き出す為の手法の難しさを学びました。櫻井先生の塾生が考えた課題が必ずしも地域課題ではないと講義で話された時、ハッと気づきました。
- ・問題を問題として捉えず、地域の資源と考えて、その地域の人々と一緒に楽しみながら活動に取り組んでいく。自らが楽しみ、ワクワク出来ることが大事だと思う。

○地域に対する気づき

- ・困り事、支援が必要な方が多いなと感じました。手助けが必要な要所々で力に慣れたらと思います。
- ・長田区の現状がみえてきた、住みよい地区だと感じました。
- ・地域で、今まで隠れていた発見やニーズについて考えるきっかけになり、また、思っていた以上に困っていなかったという結果も大切な気づきだと思ったので良かったです。
- ・買い物に困っている高齢者はいるのかに対し、調査してみるといなかった。
- ・地域の事を直接聞くことで、日頃の困りごとや、以前からの困り事など、多くの団体があるということに気づいた。そういった困り事が少しずつ減少するよう取り組んでいけたらと思います
- ・長田区という1つのテーマで、いろいろな情報を交換・共有する事ができたと思います。

○コーディネーターとしての学び

- ・安心⇒信頼で結ばれる社会、多様な人とつながることの重要性。よそとつながる「力」を

持つ。よその人の一部として近所のよその人と話をしたいと思います。

- ・コーディネーターとして、人と人をつなぐことの大切さ！根本に人に対する思いやり、尊敬の思いがないとコーディネーターはできないのかなと感じました。
- ・地域の課題を知ること。
- ・コーディネートに必要な忍耐力

○チームワークでの学び

- ・問題解決のためのプロセスや手法を話しあうことにより、チームとしての意見がまとまっていく過程が勉強になった。
- ・チームで取り組む意義、必要
- ・この地域づくり塾に参加していなければ、接点がなかったような方々と出会い、年齢も所属もバラバラな人たちとチームを組み、それぞれの視点から考える「地域づくり」をまとめて企画作りを行うということに最初は、うまくやっていけるのか不安はありましたが、

グループでの活動を重ねるにつれて、違った視点（今まで自分の中になかった考え）を知ることが楽しくなりました。この経験をきっかけに、様々な取り組みを行っている方と積極的に関わり、自分の考え方にとらわれない（良い意味で）、沢山の引き出しを作っていきたいと思いました。

○今後に活かしたい学び

- ・職場が西海岸、真志喜。住居が真栄原です。両地域に今回の活動の成果をつなげていきたい。
- ・一人で問題をかかえこまず、周囲の相談者へ相談する事の重要性を学びました。
- ・地域づくり塾で学んだことをまずは自分が住み馴れている地域で何か取り組めればと思います。
- ・地元足を運び役員（自治会）を引き受けたい（オファーあり）

設問6) ぎのわん地域づくり塾の修了生となって、今後宜野湾市の地域づくりにどのように関わっていけるとおもいますか。

○具体的な活動を考えている方

- ・今後、地域の居場所づくりとして、どのような課題・ニーズがあるのか把握し、解決に向けて何が必要で、どのような働きかけが重要なのか考えていけたらと思いました。
- ・問題が集まる場を提供したいと考える。自治体活動との連携。
- ・今後、事業所や社協、市役所の資源など、いろいろな発見があったので、ニーズへのつなぎ役として頑張っていきたいです。
- ・役所でのコーディネーター業務や長田区地域活性化プロジェクトにも入っているので、その活動にも関わっていけたらなと思います。

- ・ワークショップや話し合いの場に積極的に参加していきたいと思います。
- ・自分の地元やその他の地域の人々と協働して活動できる確信が持てた。今回の経験を活かし、小さな単位の地域・個人から活性化していく。
- ・自分は20年前、商工会主催の「はごろも経営塾」に参加したことをきっかけに、地域づくりに関わりました。その後、横断的な地域団体、NPO 法人コンベンションティ会を立ち上げ活動して参りましたが、今後は、商工業者、学校、病院、そして自治会、地域住民を巻き込んで活動をサポートしていきたい。

○積極的に関わりたいと考えている方

- ・地域づくりをきっかけに、学生や福祉以外の分野の方々と沢山知り合うことができました。「地域づくり」という大きなテーマに、まず自分自身に何ができるのか考え、出会った人たちとうまく力を合わせて、宜野湾市について話し合うことはできると思います。実際に塾で同じチームになった方々とは塾終了後も関わりがあり、ゆんたく会をしながら、お互い無理しない程度で協力して欲しいものがあれば協力してもらおう！という流れを形成中です。こんな風にどんどん人を巻き込んでいくと何か地域づくりに関わる機関ができてくるのかな。と考えています。
- ・積極的に関わっていきたいと考えています。地域づくりの情報提供を続けてお願いします。
- ・地域づくりに関わっていきます。
- ・宜野湾市の地域が抱えている課題は何なのか、地域住民はどう感じているのか、ただ聞くだけでなく、具体的な解決策を地域の方々と意見交換しながら、導き出す為に私も微力ながら関わりたいと思います。「人が支える喜び」「人に支えられる喜び」を実感できる宜野湾市になれるよう、私も塾生の一員として携わりたいです。

- ・市民のひとりとして、主体的に取りくんでいけたらと思います。「コーディネーター」としては、地域をすることにもっと努めたいと思います。

○仕事に活かしながら活動したい方

- ・立場的に、各機関への中継をして、一つでも多くの問題解決につなげたいです。
- ・関わっている仕事に活かしたいと思います。
- ・仕事に活かしたい。

○何が出来るかわからないが関わりたい方

- ・まだ具体的に何が出来るか、何をしたいかとはありませんが、微力ながら、一緒にできることがあればサポート（お手伝い）したいと思っています。
- ・自分で動ける範囲内であれば、活動していきたいです。
- ・他のチームが調べた内容も含めて、多少の情報提供・共有はできると思う。また、そこから何か繋がりが出てくると思う。
- ・今回取り組んだことに、足りない部分もあると思うので、より深めていけるよう、同じ思いをもっている方々への情報共有ができたら、と思います。

設問7) ぎのわん地域づくり塾を受講しての感想やご意見等をご自由にお書きください。

- ・日程としては、ハードスケジュールになったけど、地域の人とのつながりや今の仕事に活かせる部分が沢山あったので参加して良かったと思います。
- ・フィールドワークがすごく良かった。又、チームに社協、役所のメンバーがいて、知恵を分けあえてよかった。
- ・今回、地域づくり塾を通して、いろいろ学べ

て良かったです。

- ・今回、チームあんぜんの一員として、塾生と多くの時間を費やしましたが、チーム一団となって取り組めたことは私にとって財産であります。そして何より住民主体の街づくりに塾生として何が取り組めるのか、真剣に考える機会となりました。
- ・職場以外の素晴らしい人々に出会い、モチベ

ーションが上がり、仕事にも活かされました。

- ・今回、長田区という自治会のことをいろいろと知ることができましたが、自分自身が住んでいる地域（野嵩）のことも知っていることがほとんどないことに気づかされました。この受講をきっかけに何らかの地域に繋がることをしたいですね。
- ・自分の住んでいる地域で、このような機会があれば参考にしたいと思いました。
- ・修了式を最後まで参加できなかったのが心残りですが、環境チームで取り組んだ事柄を実際に実施できるよう、自治会長さんと連携しながら、今後も積極的に関わっていきます。
- ・最初の櫻井先生の講座で地域づくりの中でコーディネーターは、ぐいぐい意見を出す存在ではなく、地域の本当に思っていることを引き出す存在であって1人ではなにもできない。と話していたことが、とても印象的で、この塾で自分も本当の思いに気付けるスキルを少しでも身に付けたいと強く思いました。地域の方に実際にインタビューすることも初めてで、スキルが身に付いたのかは、あまり実感はありませんが、どうしたら（どう質問したら）本音を引き出しやすいかな。と考えるようになりました。全7回の講座はどの回も新鮮で毎回学びの多い機会になりました。
- ・まったなしの重要な課題を多く抱える時代、次の世代に何をわたしていけるのか、何をしなければならぬかが見えたこの機会でした。
- ・地域づくりの実践と学習を一体的に学べる場であり、つながりの場であり毎回の講義などで新しい発見がありました。今後の業務・地域づくりに活かしていけたらと思います！長期間の運営お疲れ様でした！
- ・これまで行ってきた業務が、ちゃんと地域課

題を捉えたものではなかったもので、今回の塾での取り組み（課題⇒原因仮定⇒現場調査⇒解決策の提示）は、業務内容設定の際に役立ちそうです。

- ・いろいろお世話になりました。
- ・運営・企画ありがとうございます。
- ・より深く地域の事に取り組むということが、今回初めてできたが、受講を通して地域の活性化がより近く感じました。
- ・とても良い経験になりました！ありがとうございます。今回の企画、運営、大変お疲れ様でした。開催していただいたことに感謝します。
- ・このような機会をいただきましてありがとうございます。主催・運営スタッフの皆様、ありがとうございます！
- ・①修了生との交流機会をこれから数多く作って頂きたいと考えています。②現在、地域づくりに関わっている方々講演や、地域での活動状況などの見学機会が欲しい。③各区（自治会）毎の地域づくり塾の開講を創って頂きたい。最寄りの大学の一般講座化。④自治会活動化し、地域づくり推進団体化促進。
- ・大変良かったです。これからも継続して欲しいと思います。
- ・ぎのわん地域づくり塾は、今後も続けるべきです。今後、住民主体の街づくりを国は進めています。現在社会では解決できない複合的な課題が多く存在します。その解決を図るには、行政や関係機関だけでなく、何よりも住民自身をもっと身近な地域に関心を持ち、自分に何ができるのか、多くの塾生が関わることで、再発見するきっかけになります。事務局は大変だと思いますが、引き続き事業継続をお願いします。
- ・モデル区を各地域に落とし込んで、さらなる

輪を広げることができたら、良いと思います。

- ・市民が活動、活躍できるシステムづくりが必要だと思います。参加者が真剣に積極的に取り組んでいて、このネットワークを活かすべし！ですね。最後の櫻井先生の話はとても感動して涙が出ました。復習的なことも含め、先生の講義を設定したのはよかったです。もっと聴きたかったです。
- ・どれだけ地域に関われるかなと思いながら受

講したのですが、以外と楽しめたかなと思います。

- ・限られた講義・時間の中で内容のボリュームが大きかったと思うこともあったが、初めての活動としては、入りやすかったと思いました。
- ・様々な年代の方や異業種と関わりを持つことの大切さを感じることができました。
- ・これだけの市民が参加して取り組む姿をみて感動しました。

【ヒトコト】 富濱宗俊氏（長田区自治会会長） ぎのわん地域づくり塾モデル地区**～地域を知り、繋がりによる課題解決に向けて～**

長田区がモデル地区ということでの受講希望者が来ていただけるのか不安もありました。しかし、どれだけの住民意識があるのか、把握しきれていない情報の発掘、地域ニーズは何か、本当の地域課題とは何か、課題解決の緊急性や必要性の核心部分を確認できるのではと期待していました。そして、地域づくり塾が始まり、塾生から地域活動に取り組む方へのインタビューを通して、地域づくりネットワークを構築するきっかけ、新たな気づき、自分たちの活動を再確認するような感覚と期待を持つことができました。

長田区でも地域住民が意見や話合う場があって、そのなかで地域づくりのヒントとして課題集約を活用する場所づくりに努めています。その課題を一人の悩み事なのか、地域全体の課題なのかを、地域を元気にしたい方や、関係する団体組織と一緒に関係性を超えてお互いに課題解決に向けて取り組む課題解決型の実働部が必要だと感じております。その場には、地域コーディネーターの知識がある塾生のような存在が重要になってくると感じております。

また、多くの方々が、ボランティア団体の活動や、地域に向きあい地域の発展に関わる方の活動には気づいていないと思います。これからの宜野湾市はそういった小さな支え合いの場や取り組む人を知ることが重要だと感じます。実はだれかが支え合いの中心になっているということ、それを紡ぐ存在として地域コーディネーター育成が住民主体のまちづくりに繋がっていくのではと期待しております。

この塾が多年に渡り続いていき、多世代に渡って参加してもらうことで地域協働と開放性のある開かれたまちづくりに発展して行くものと考えます。

5. 総括 ～第1期の評価と今後に向けて～

○多様な年代と属性の塾生の参加を得た

第1期塾生として、20歳代から60歳代までの多様な年代と民間企業、地域組織、行政、など官民の多様な立場の方の参加を得られた。

チーム分けについては、メンバーに似た属性の人が集まってしまったチームもあり、当人の動機と属性バランスをみながらのチーム分けは課題である。

○最後まで参加人数が減らず塾プログラムを修了できた

第1期塾生36名のうち第7回講座（最終発表）に34名の塾生が参加していた。参加者が1名というチームがあった回もあったが、最後まで参加する塾生が多かった。市社会福祉協議会職員が10名参加しており、各チームの状況や情報の補完を行ってくれていたことは参加率が落ちなかったことに貢献してくれていた。

○チームの状況の見える化に課題

第3回でのチーム分け以降の各チームの動きについて共有する機会やしくみがなく、第6回の中間発表でチームの状況が初めて見えるということがあった。全7回のプログラムスケジュールがタイトであったことから各講座での各チームの発表の機会をつくるのが難しかった。

○各チームともに協働による地域づくりのプロセスを学んでいた

想定・設定した問題設定が間違っていたことを知る、という大きな結果を得たチームや具体的なアクションまで行ったチームまで様々であったが、それぞれのチームがそのプロセスから学びを得ていた。課題にたどり着くことが困難なことを知るプロセスが重要であり、じっくり話し合う場の重要性を学ぶ機会となった。

近いテーマのチームもあったが、混在していることで異なるアプローチが見えることはプラスに働いた。

○宜野湾市・市社会福祉協議会・長田区自治会・アドバイザー・まちなか研究所わくわくの五者協働による運営体制

主催者の宜野湾市と市社会福祉協議会、モデル地区の長田区自治会、市の協働推進のアドバイザーである櫻井常矢教授、企画運営を担ったNPO法人まちなか研究所わくわくの五者協働による運営体制が機能した。

○モデル地区自治会長からの地域課題の提示

長田区自治会の富濱会長から長田区の困りごとを地域課題のテーマとして提示してもらったことにより、地域に寄り添った検討を各チームが行うことができた。提示する困りごとの分野や粒（テーマ）の大きさについては事前の検討が重要となる。また、課題だけでなく、既にある地域の取り組みや努力を知る事も重要である。

○塾プログラムの改善ポイント

- ・ 塾生全体の交流の機会と各チームの発表する機会がプログラム終盤になってしまった。プログラム前半に持ち、チームの発表の機会を早め、意見を早い段階でもらうことが発表内容の質を高めることにつながる。
- ・ 各チームの途中経過の見える化については、毎回の講座会場への掲示や web サービスの活用の方策の検討。
- ・ 長田区の基礎情報については第 2 回講座において、全体で行うことができたが、テーマごとの基礎情報共有の機会や方法については今後検討。
- ・ 全体を通した全 7 回の回数と各回原則 120 分という時間では足りなかった。回数を 7→8 回にすることや期間を 2-3 週のばすことの検討。
- ・ モデル地区だけでなく、他地区へのインタビューなどもチームの自主プログラムとして提供することの検討。
- ・ 中間発表を中盤に設定し、櫻井先生を交えた中間相談会という位置づけの検討。
- ・ 最終発表を長田区がどのように受け止めたのかについて、話し合うことはできなかった。塾生の発表を地域の方々と話し合う時間も重要であるため、発表後にチームごとにディスカッションワークを持つことも検討の必要がある。修了式は別日で開催もできる。

○第 1 期塾生の終了後の活動の動きが見える

「地区を超えて長田区を応援したい。長田区に関わりたい」「ゆんたくサロンをやりたい」などの声が出ている。今後、卒塾生の集まる機会づくりや宜野湾市内の地域づくりをサポートしていくチームの結成、地域のニーズキャッチと卒塾生の活躍の場のマッチングなどの働きかけが重要となる。

また、次期の第 2 期塾プログラムにおけるチームの助言役を第 1 期生に担ってもらうなど、今後増えていく卒塾生の塾プログラムへの関わり方を設計することが重要となる。

○地域における中間支援機能の研究

市として、アウトリーチを中心とした地域における中間支援機能の研究を深めていく必要がある。

平成 28 年度 地域コーディネーター養成講座

ぎのわん地域づくり塾 2016 報告書

平成 29 年 (2017 年) 1 月

発 行 宜野湾市 企画部 市民協働推進課
社会福祉法人 宜野湾市社会福祉協議会

作成・編集 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく
〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋 1 丁目 7-5
TEL : 098-861-1469